

記 事

◎通常総会

昨年度は東北支部主催、仙台市で開催したが本年度は恒例により東京で開催することとなり、昭和 29 年 5 月 29 日午後 1 時 30 分早稲田大学大隈大講堂において行われた。

菊池副会長開会を宜し、平井会長議長席につき、引続き

昭和 28 年度事業報告 兼重総務部長

昭和 28 年度決算報告 中島経理部長

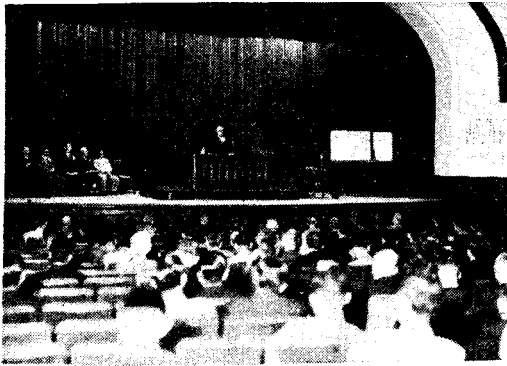
(いずれも別掲参照)

を行い、満場一致承認。

名誉員推挙 平井会長より前会長辰馬鎌蔵、黒河内四郎の両君及び前副会長米元普一君を名誉員に推薦、推薦理由を述べ一同にはかつた結果満場一致拍手をもつて賛同、ただちに以上 3 氏に平井会長から推挙状を授与した(別掲参照)。

昭和 28 年度土木賞授与 吉田委員長より土木賞委員会の経過を説明し別掲のごとき授賞理由を述べたのち、平井会長より学会賞 2 名、奨励賞 3 名に対し賞状を授与した。

写真-1 総会場



新任役員紹介 平井会長より常議員会で選挙決定した 29 年度新任役員の紹介が行われ満場拍手をもつて迎えられた(別掲参照)。

会長講演(別掲)

午後 3 時 10 分菊池副会長の閉会のことばをもつて総会をとどこおりなく終了、出席者約 200 名。

◎通常総会有志懇親会

通常総会、講演会(第 1 日)に引続き、29 日定刻よりやや遅れて午後 6 時 30 分より早稲田大隈会館で行われた。菊池副会長の挨拶について平井前会長、青

写真-2 懇親会場



木新会長よりそれぞれ辞任と新任の挨拶があり、出席者 101 名は長老から新鋭に至るまで全国から集まり、なごやかな気分のうちに株式会社間組寄贈のビールの満を引き思い思いに話の花を咲かせ、デザートに入るやまず新名誉員辰馬鎌蔵、米元普一両氏の偕ぎやく交りのスピーチに続いて、土木賞受賞者を代表して猪股、樋口の両君の挨拶があり、各地方区代表として、北海道の真井支部長、東北の宮本支部長、関西の近藤支部長、西部の松尾九大教授、八田前会長及び東日本保証会社の官長平作氏等のおのおの愉快なテーブルスピーチは尽きるところないようであつたが午後 8 時過ぎ散会した。

◎第 10 回年次学術講演会

通常総会に引続き午後 3 時 20 分から同会場で年次学術講演会の第 1 日が開催された。昨年の例にならぬ土木賞受賞者 5 君(内坂本貞雄君は目下在米中のため省略)の講演が行われ、ついで祝祭予定の須田具発電所建設工事及び京浜港工事について講演された。続いて早大講師関根吉郎氏の“南米アコンカグア遠征”を天然色スライドによつて面白く説明され、一同感にたえず午後 6 時過ぎ終了した。

第 2 日 30 日は午前 8 時 30 分から早稲田大学商学部各教室において、7 会場に分れて行われた。

各会場の部門、講演数及び司会者は次のとおりである。

第 1 会場(測量及び応用力学)

講演数: 23

司会者: 丸安隆和, 大野謙, 久保慶三郎, 岡本舜三

第 2 会場(土質及び基礎工学)

講演数: 22

昭和石油扇町油槽所	5	10.0	1 500	1	油	類
出光興産	23	10.0	15 000	1	油	類
日本鋼管大島埠頭	291	9.0	10 000	2	鉱	石
日本鋼管扇町埠頭	408	9.0	10 000	2	石	炭
国鉄川崎支庫	116	6.6	3 000	1	石	炭
東京電力鶴見発電所	78	7.5	3 000	1	石	炭
東京電力潮田発電所	90	7.5	3 000	1	石	炭
昭和電工	184	7.3	3 000	1	硫	安
市営埠頭	180	9.0	10 000(工事中)	1		
計	2 973		15 600	2		
			10 000	15		
		計	3 000	5		
			1 500	1		
			500	2		
			計	25		

参考のために市当局の 10 ケ年後の計画案を示すと表-2 のとおりである。

表-2

繫船岸	水深10m	1 140 m	6 バース分
防波堤	9m	180 m	1 バース分
護岸		1 450 m	港口を含む
揚場		860 m	
繫船浮標		1 100 m	
泊地航路		5 基	
溜漕		476万m ³	
上屋		3ヶ所	
荷役機	13 棟	22 800 m ²	
		10 基	

以上の計画の実現のためには約 82 億円の巨額を要し、財源として国庫補助並びに分担、一般市費起債及び千鳥町地区東側半分約 28 万坪の売立等が見込まれている。

なお県営にて 28 年度より 45 億円、6 ケ年計画をもつて千鳥町より多摩川に至る 165 万坪を埋立て工場誘致に乗出すこととなつたが、臨港鉄道並びに塩浜操車場の建設計画等も国鉄当局と交渉中である。

市営埠頭を出発した我々のランチは京浜運河を航行しつつ大工場の林立する臨海工業地帯に入った。日立造船 10 000 t ドック、出光興産川崎油槽所の灰色のタンク、ここは 15 000 t 級 1 バース、さらに運河を右へ折れ日本鋼管 10 000 t 級 2 バース、昭和石油 10 000 t 級 1 バース、巨大なクレーンを手足のように働かせ石炭の積卸しを行つている東洋埠頭貯炭場は 10 000 t 級 2 バース、このほか同埠頭には接收中の雑貨岸壁 10 000 t 級 2 バースがある。

このほか接收中のものに三井埠頭 10 000 t 級 2 バースがあるが、いづれも本年中には接收解除の見込みとのことである。

やがて我々のランチは西防波堤及び雑草の生いしげる扇島を左手に眺めながら昭和電工、東電鶴見及び潮田発電所、国鉄川崎支庫各 3 000 t 級バースを見学、日清製粉 10 000 t 級バースを最後に川崎地区を終り、

シエル、スタンダード、日本石油、等の油槽タンクの立並ぶ横浜地区に入った。

この頃より小雨が降り始めたがレインコートを頭からかぶつたり、傘をさしたりして熱心な見学が続けられる。

川崎二号浮標を左手に見て右折し、東京ガス末広工場の石炭積卸作業を見て旋回、埋立工事施工中の大黒町地区を通過した。ここより先宝町、大黒町地区は目下水深 9 m に浚渫中で第二港建の浚渫船が至る所で活躍中である。恵比須町を右へ折れ総工費 7 億 5 000 万円、容量 20 000 t の農林省国営サイロ建設工事現場を見学、サイロ付設の接岸施設は水深 10m、10 000 t 級 1 バースで予算 1 億 1 000 万円、29 年度中に完成の予定である。やがて左手に去る 5 月完成した出田町埠頭が見え始めた。これを表示すると次のとおりとなる。

岸壁延長	270 m
許容載荷量	2 t/m ²
エプロン巾員	10 m
臨港鉄道敷設延長	3 357.5 m
水深	-7.5 m
起重機荷重	55 t (抗力 2 t ポータブルクレーン)
繫船能力	5 000 t 級 2 バース
上屋面積	2 棟 4 300 m ²
埋立面積	約 14 000 坪
貨物取扱能力(雑貨)	年間 20 万 t
岸壁築造費	60 万円/m
工事予算	3 億 3 800 万円

本埠頭はさらに石炭埠頭(水深 7.5 m、延長 250 m 5 000 t 級 2 バース)を引続き建設する予定である。

さらに左に迂回し目下連合軍に接收中で、横浜公共施設の 61 %を占める瑞穂(ノースピヤール、7 バース)新港(センターピヤール、12 バース)の両埠頭をへて新山下埠頭を見学した。この埠頭は工費約 5 億円(全額国庫)をもつて水深 10 m、15 000 t 級 1 バースを 29 年度中に完成の予定であり、さらに水深 12 m 40 000 t 級 1 バースを 30 年度中に完成するべく努力している。本年度工事概要を次に示す。

岸壁延長	180 m
埋立面積	約 35 000 m ²
水深	-10.0 m
許容載荷重	3 t/m ²
バース	15 000 t 級 1 バース
設計震度	0.2
取付護岸	240 m

貨物取扱能力 18 万 t/年

かくて正午大棧橋に上陸し、横浜市港湾局員の出迎えをうけ、ただちに船客待合所に入り、早田横浜市港湾局長の丁寧な歓迎の辞があり、それに答えて平井土木学会長の挨拶があつたのち、横浜市中心づくりの昼食に空腹を満たした。

ここで約1時間の休憩があり、氷川丸、めきしこ丸等の威容を眺め午後1時大棧橋より2台のバスと数台のハイヤーに分乗、市内を見物しながら高島埠頭に向つた。高島三号棧橋は既設一号二号棧橋に平行し、昭和27年度より工費総計8億5000万円をもつて着工、去る4月末完成をみた新棧橋でその概要は次のとおりである。

棧橋延長	190 m
水深	-10.0 m
列車荷重	K.S-12
棧橋巾員	70 m
バス	15 000 t 級 2 バース
起重機荷重	60 t (能力 3 t)
棧橋総面積	13 200 m ²
許容載荷重	3 t/m ²
上屋面積	6 200 m ²
エフロ巾員	11.0 m
設計震度	0.2

1時30分高島棧橋より、海上保安庁巡視船げんかいに全員乗り込み海路東京港へ向つた。

写真-4 高島棧橋よりげんかい(450 t)に乘込む一行



この間約1時間30分、小雨が降り続き、全く視界がきかず残念であつたが、東京都港湾局江端技師の適切な説明により至極快適な海の旅が続く。わからぬながら海図を眺めたり、無線室、司令塔、船長室、気笛室等に三々伍々たむろしながら、楽しい会話があふれる。雨の中を元気に上甲板に飛び出し、針路計を見たリ、双眼鏡をのぞいたりする会員の姿も見かけた。

羽田飛行場、品川お台場、埋立工事中の品川埠頭予定地の沖合を通過する頃には雨は次第に晴れ上がり始めた。

品川埠頭は25万坪の埋立を予定し、現在1/3が工事終了したが、将来繫船岸壁1600mを完備し、10000t級外貨船を自由に出入させる計画であるとのこと。

かくて3時30分晴海棧橋沖にげんかいは碇泊、東京都しのめ丸に一同乗り移り同棧橋へ上陸したのは4時であつた。

ここで東京都港湾局二宮技監、及び奥村技師の晴海棧橋工事についての概要を聞く。現在繫船岸壁巾員14m、延長168mを完成、ニューマチックケーソン工法を採用しているとのこと、将来延長1320m、10000t級8バースを完成の予定である。水深9mに浚渫中のため、物凄い勢いで浚渫船が活躍していた。

20分で晴海埠頭の見学を終り、再びしのめ丸に乗り対岸の豊洲石炭埠頭に向う。

本石炭埠頭は延長300m、10000t級2バースを備え現在年間荷役能力120万tであるが、近き将来は5

写真-5 豊洲石炭埠頭で石炭積卸作業を見学



バース年間300万tを予定し、脊後豊洲町に建設中の東京電力火力発電所5万坪及び、東京ガス10万坪の敷地造成が完成すれば、年間600万tの荷役能力をもち、東京全都民への電力及びガスの供給を一手に引受けるようになるとのことである。巨大な橋型クレーンが3基あり、2.5t型2基が北海道炭の積卸しに活躍中であつた。このほかに5t型が1基あるが、能力は2.5tで150t/hr、5tで300t/hrとのこと。昨年7月国鉄小名木川駅より埠頭まで臨港鉄道が開通し、徐々に船による輸送を中止してゆく方針である。

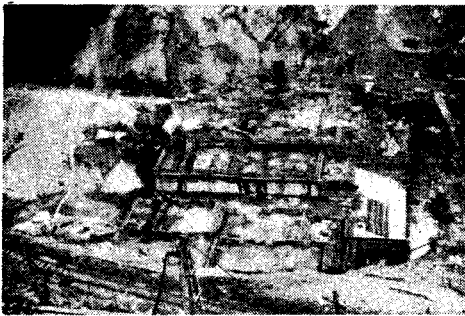
以上で見学の全日程を終り、しのめ丸にて東海汽船竹芝棧橋へ上陸したのが予定どおり午後5時であつた。ここで東海汽船待合室における東京都歓迎晩さん

会に臨んだ。東京都高橋港湾局長の歓迎の挨拶に続き、平井会長の謝辞があつたのち晩さんに入り、ビールに渴をいやし和気あいあいのうちに会員を代表して黒田武定氏の音頭により土木学会の万才を三唱して解散、参加人員合計 67 名であつた。終りにのぞみこの見学会に絶大な御援助を載いた、運輸省第二港湾建設局、海上保安庁、川崎市、横浜市及び東京都の関係各位に対し厚く御礼申し上げる。

B 班（東京電力 KK 須田貝発電所）

梅雨を思わせる曇天のもと、午後 1 時水上駅前よりバス 2 台に分乗、現地に向う。参加人員約 80 名。利根の溪流に沿ひ、青葉の山路を進む。途中東京電力幸知発電所、建設省藤原ダム建設現場を車上より望見し、午後 2 時過ぎ須田貝発電所工事事務所に到着。ただちに鈴木東京電力奥利根水力建設所長より須田貝地下発電所工事についての説明があり、次いで高野群馬県土木部長の挨拶があり、その後 2 班に分れて工事現場見学に向う。

写真—6 須田貝発電所ダム全景



須田貝発電所地点は利根川上流にあり、奥利根総合開発計画の一環をなすものであり、昭和 28 年 8 月発電開始した幸知発電所（最大出力 18 600 kW）の直上流に位し、利根川本流と楢股川との合流点に基礎岩盤上満水面まで 73 m のダムを築造、ダム直下左岸に地下発電所を設計、水圧鉄管 2 条をもつて導水、有効落差 73 m を得て、最大出力 40 000 kW を発電せんとするものである。貯水池は有効容量 22 000 000 m³ で冬期渇水期の補給水として利用することはもちろん、他の期間の流量を調整して、自己及び下流既設発電所の利用率を高めんとするもので、これ等送電は 154 000 V の送電線により約 10 km 下流幸知発電所の送電線に接続送電する計画である。

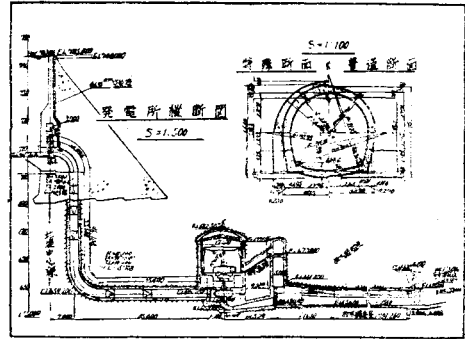
須田貝発電所概要は次のとおり

取水河川名	利根川水系、利根川
ダム位置	群馬県利根郡水上町大字藤原
最寄駅	上越線 水上駅

発電力	最大	40 000 kW
	常時	3 600 kW
有効落差		73 000 m
使用水量	最大	65 m ³ /sec
	常時	10 m ³ /sec

年間発生電力量(下流幸知を含む)167 800 000 kWh

図—2 放水路トンネル標準断面図



設計上の問題としては、須田貝発電所は内法長 56.3 m、巾 15.6 m、高さ 31.0 m のアーチ垂直型であり、花崗岩地帯であつて地下発電所は特に堅牢な花崗岩部であるが、もし滲透水が水圧としてアーチまたは側壁に作用するとすれば構造的にも非常に無理なものとなる。従つて発電所周囲（特にダム側）にはグラウトを行い、カーテンウォール状に止水膜をつくり、さらに排水トンネルを発電所周囲に開削して滲透水の集水を行い、これを下流側に排水し地下発電所自体には水圧は全く作用しないよう充分考慮している。地下発電所と発電機室、換気機械室を地下に設け、事務室等は地上に設けることとしている。そのため特に換気、湿気、

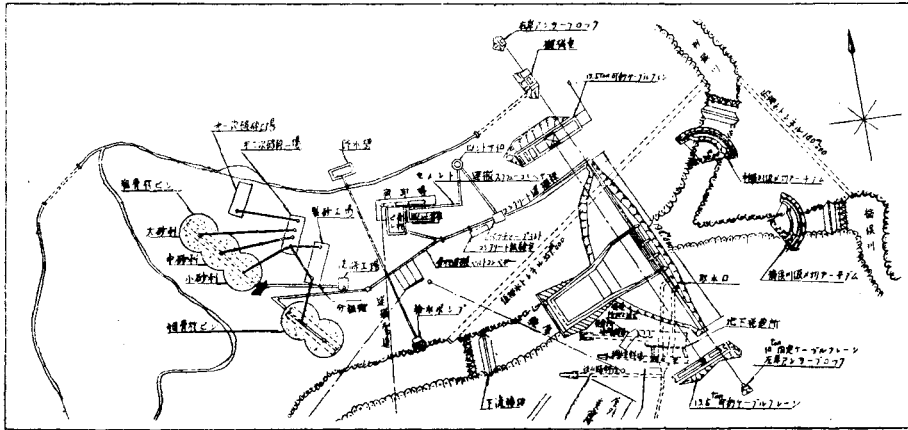
写真—7 須田貝発電所工事現場を視察する一行



騒音、照明に気をつけ、また急激な負荷の変化に応じて所定流量を安全に流下し放水路トンネルを水衝作用から保護するために水車吐出口直流にサージタンクを設置した。

施工法については、建設方式のうち最も重要な要素は掘削方式であつて、発電所頂部と底部にまず導坑を

図—3 須田貝発電所工事仮設備配置図



同時に開削し、しかる後にこの導坑を相互に連絡するシャフトを設ける。次にアーチ部分の切り掘げにかかるわけであるが礫出しはシャフトを通じ底部導坑に落とし込み、これよりダンプトラックをもって土捨場に運搬する。掘削を円滑ならしめるためには第一に礫出しが問題であつて、斜坑 5本のうち 3ヶ所には巾 80 cm のベルトコンベヤー堅坑にはフラムセルバケットを設置し、各坑 60 m³/day の礫出しを計画した。コンクリート打設はすべてコンクリートポンプをもつて行う計画で REX-S 2 008' 2 段、複胴コンクリートポンプを使用する。

午後 5 時、現場見学を終えて、再び車上の人となり帰路に向う。午後 5 時 30 分建設省藤原ダム工事事務所に到着、坂西関東地建藤原工事事務所長の説明をきく。

藤原貯水池計画は多目的ダムの性質を有し、建設省直轄の下に昭和 27 年度に着手されたものであり湯楢曾川合流点より 6 km 上流部利根川本川に高さ 94.5 m のコンクリートダムを築いて総貯水量 5 421.5 m³ の貯水池を設け、上流流域 401 km² よりの洪水を貯溜し、同地点計画洪水量 1 950 m³/sec を 850 m³/sec に減少し、さらに貯水池よりの放流によつて下流の沃野の灌溉用水を確保し、あわせて最大出力 29 000 kW の発電所を建設し年間 146 000 000 kWh の発生電力量を得る。ダム地点は御坂層に属しおむね堅固な安山岩でありダム築造には好適である。このダムのコンクリート量は 390 000 m³ に上り、工期は 5 ケ年で昭和 31 年完成の予定である。

事務所で湯をいやし、次の地点幸知発電所に到り、半地下式の発電所内部を見学し、午後 6 時半水上館に到着。

一風呂浴びて旅塵を落し、宴会に移つた。伊藤東京

電力建設部次長の丁重な歓迎の挨拶について青木会長は一行を代表して関係の方々に謝意を表して宴に移る。宴たけなわとなるや、地元美人の踊りに興を添

え、鈴木奥利根建設所長の至芸に満座の拍手鳴りやまず、やがてところどころにたむろして談論風発、その日の疲れを酔に癒して思い思いに……。

翌 6 月 1 日 (火) 朝食後、青木会長の土木学会万才三唱後散会のおの次の行程に入った。終りに臨みこの見学会に絶大な御援助をいただいた東京電力 KK、建設省、群馬県、KK 間組、KK 西松組の関係各位に対し厚く御礼申し上げる。

◎定例常議員会 (昭. 29. 5. 29) 出席者：平井会長、福田、菊池両副会長、岩塚、神田、水越、森田、近藤、佐島、山本 (代伊原) の各常議員、那波、大河戸、草間、安芸、鶴見の各名誉員、宮本、近藤両支部長、兼重、榎、中島、最上、篠原の各理事、委任状 27 通で過半数出席と認め常議員会成立、議事：1) 昭和 29 年度会長、副会長、理事を選挙、開票の結果次のとおり決定した。

会 長	青木 楠 男	早稲田大学教授
副会長	藤井松太郎	国鉄技師長
理 事	飯田房太郎	株式会社間組取締役営業部長
"	上 野 省 二	運輸省港湾局機材課長
"	後 藤 正 司	早稲田大学助教授
"	立 花 文 勝	運輸省鉄道監督局国有鉄道部施設課長
"	星 埜 和	東京大学教授

2) 昭和 28 年度事業報告案 (兼重理事説明) を承認、3) 昭和 28 年度決算報告案 (中島理事説明) を承認、4) 名誉員候補者と辰馬鎌蔵、黒河内四郎、米元普一の 3 氏を推すこと、5) その他 40 周年記念事業について報告。

◎第 12 回理事会 (昭. 29. 5. 7) 出席者：福田、菊池両副会長、兼重、中島、中路、岡本、佐島、坂本、

篠原, 最上, 片平の各理事, 議事: 1) 4 月中行事その他報告, 2) 会費滞納者報告, 3) 規則第 12 条による 40 年継続会員の会費免除者は池田嘉六, 大蔵公望, 岡村信三郎, 永井専三, 原全路, 福留並喜, 米元普一の諸君である。4) 名誉員候補者として辰馬鎌蔵, 黒河内四郎, 米元普一の 3 君を推薦すること, 5) 後任理事候補者を選定, 6) 昭和 28 年度事業報告及び決算報告案について検討, 7) 関東地区常議員改選開票立会者及び日時を総務部に一任, 8) 常議員会を 5 月 29 日午前 10 時開催のこと, 9) 総会及び懇親会次第について, 10) 第 10 回年次学術講演会打合せについて, 11) 土木会館建設候補地について, 12) その他。

◎各種委員会

1. 編集委員会 (昭 29. 5. 20) 出席者: 佐島副委員長, 森, 吉川, 三木, 神田, 鈴木, 長浜, 丸安, 坂本各委員, 中川書記長, 徳平幹事。協議事項: 1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定, 3) 39 巻 7 号掲載論文を次のとおり予定。

友永和夫: 欧州の橋梁その他について (II), 後藤尚男: 橋梁下部構造橋軸平行方向の固有周期算定について, 村山朔郎・谷本喜一: 摩擦杭支持力の静力学的解析, 木村春彦・大内正夫: 堆積物の運搬機構に関する研究, 栗津清蔵: 板に垂直に当る射出水の性質について, 菅野 一: 小規模水中コンクリートの一工法。

4) 依頼原稿の件, 5) 39 巻 5 号及び論文集 19 号討議依頼先について, 6) 後任編集委員の決定。

2. 抄録委員会 (昭. 29. 5. 10) 出席者: 樋口, 松本, 林, 久保, 久保島, 平嶋, 渡辺修自 (代八木) 各委員, 徳平編集幹事。議事: 1) 第 39 巻 6 号抄録として 8 篇を決定, 2) 繰越 16 篇, 新規 5 篇につき協議した。

3. 第 18 回プレストレスト コンクリート委員会 (昭 29. 5. 7) 出席者: 吉田委員長, 沼田, 国分, 内山, 山田, 伊東, 猪股, 宮崎, 海上 (代白木) 菫島, 渡辺 (代大西), 村田, 山崎, 三浦, 樋口, 深谷, 田村, 川口の各委員, 議事: 1) 第 52 条計算上の仮定から第 59 条設計荷重に対する計算まで逐条審議を行う。

第 19 回同委員会 昭. 29. 5. 21) 出席者: 吉田委員長, 沼田, 国分, 岡本, 海上 (代白木), 木村 (代大西), 渡辺 (代上野), 三浦, 菅原, 深谷, 田村, 川口の各委員, 議事: 第 60 条腹鉄筋の設計及び第 63~66 条逐条審議。

4. 第 8 回コンクリート鉄道構造物委員会 (昭. 29. 5. 8) 出席者: 吉田委員長, 沼田, 高橋, 平井 (代

出口), 丸安の各委員, 山内, 白石, 三浦, 浜, 横山, 深谷, 田村, 川口の各幹事, 議事: 1) 第 18 条地震及び第 15 条土圧について審議。

第 9 回同委員会 (昭. 29. 5. 20) 出席者: 吉田委員長, 高橋, 平井 (代出口), 丸安の各委員, 山内, 白石, 三浦, 浜, 町田, 深谷, 田村, 川口の各幹事, 議事: 第 18 条地震時土圧と水圧について審議。

5. 第 7 回鋼鉄道橋設計示方書委員会 (昭. 29. 5. 14) 出席者: 田中委員長, 青木, 沼田, 平井, 高坂 (代白鳥), 田原, 田中(五), 奥村, 多田, 友永の各委員, 西村, 大宮, 菊池, 清水, 田島の各幹事, 池田, 宮崎両連絡員。議事: 1) 前回記録 No. 7 について, 2) 第 1 読会による改訂案 (資料 No. 32) について第 2 読会に入り第 1 章~第 3 章逐条審議。

◎その他

1. 夏季講習会講師打合せ (昭. 29. 5. 4) 出席者: 最上理事, 星楚和, 山田順治, 三浦一郎, 甲野繁夫, 伊丹康夫, 加納俊二の諸氏。

協議事項: 1) 最上理事挨拶の後, 日時及び場所は 8 月 25~27 日の 3 日間, 東大法学部 25 番教室。

2) 各講師の所要時間を勘案しスケジュールを次のとおりとする。

		8.30 9.00		10.30 11.30		12.00 14.30		13.00 16.00	
25日 (水)	会長挨拶	国分	三浦	屋敷	甲野	加納			
26日 (木)	伊丹	石井	屋敷	映画		佐久間ダム工事 (天然色)		40分	
	丹井	井食	食			小川内ダム工事		40分	
						ニューズ		15分	
						その他			
27日 (金)	小山	山終	屋敷	見学		1. 東電鶴見発電所ウエルポイント工事			
	西田	了式	会			2. 日本鋼管川崎製鉄所特殊鋼製作工程			
						3. 異形鉄筋の試験 (オリエンタルコンクリート工場)			
						4. 小川内ダム			

3) 講演者とその題目並びに予定時間

- ① フライアッシュ 国分正胤 1.30
- ② プレパクト コンクリート 三浦一郎 1.30
(スライドを含む)
- ③ ウエルポイント工法 甲野繁夫 1.30
(16ミリを含む)
- ④ トンネルの全断面堀削工法 加納俊二 1.30
(映画製作考慮)
- ⑤ 新しい建設機械 伊丹康夫 1.30
- ⑥ サンドパイル工法 石井靖丸 1.30
- ⑦ 構造用高張力鋼 小西一郎 1.30
- ⑧ 異形鉄筋 山田順治 1.00

4) 映画, 見学先は大体スケジュールにあげたものを予定し, なお他に適当なものがあれば変更する。見学先のうち鶴見発電所は甲野氏が確認の上連絡のこと。

5) 受講者及び非受講者の資料としてパンフレットを
作製する。

- a) 原稿は6月末までにお願ひする。
- b) それぞれB5 版約 10 ページ程度(図面写真を
含む)原稿用紙 60 枚程度。

2. 昭和 29 年度関東地区常議員半数改選(昭. 29.
5. 24 開票, 立会者榎理事) 投票延総数 6 842, うち無
効 52, 当選者は次の 10 氏に決定。松田勘次郎, 森
茂, 馬淵寅雄, 高野宗久, 五十嵐醇三, 伊地知堅一,
五十嵐真作, 西沢治, 田中淑造, 林一幹, 以上によつ
て岩塚良三, 近藤繁人, 佐島秀夫, 辻川秀夫, 能登尚
平, 比田正, 三浦源三郎, 水越達雄, 森田国暢, 渡辺
隆の 10 氏は退任, 川口輝夫, 神田一雄, 田原保二,
田中倫治, 堀 武, 三上恒, 三木五三郎, 丸安隆和,
山本三郎の 9 氏は留任された。

支部だより

◎中部支部 昭和 29 年度常議員選出報告 藤森謙一,
荒井利一郎(留任), 竹重貞蔵, 堀場敏一, 井上幸太
郎, 足立貞嘉の 6 氏に決定。

支部役員報告(支部長)大林勇治,(顧問)田淵寿
郎, 永田民也, 花井又太郎, 立神弘洋, 石川栄次郎,
松本金吾,(評議員)奥田秋夫, 鈴木清一, 青笹慶三
郎, 仁科太郎, 長久保信夫, 小林庄平, 田中精一, 荒
井利一郎, 永井時一, 結城朝恭, 杉戸清, 石田二郎,
松見三郎, 前田一三, 堀場敏一, 高原芳夫, 田中武夫,
河西清, 加藤英司, 河合秀夫, 関一雄, 渡辺時也, 鶴
飼孝造, 竹中徳, 足立貞嘉, 中谷茂一, 伊藤政恵, 姫
野勘次郎,(幹事長)竹重貞蔵。(幹事)樽井常忠, 小
村宏, 片岡武, 戸田福三郎, 畠山実, 岡田淳, 佐久間
龍雄, 渡辺新三, 四野宮哲郎, 小野一良, 鈴木和平,

井上幸太郎, 谷重幸, 鈴木誠一, 鈴木隆吉, 長谷川亘,
藤本得, 早川増一郎, 土方大武, 長坂一彦, 白井美次,
松本邦顕, 河辺義郎, 宮脇潤, 野坂真孝,(世話役)
三宅正夫, 高田緑, 山下胫登, 今泉正和。

第 1 回幹事会(昭. 29. 4. 19) 出席者: 大林支部
長, 竹重幹事長他幹事 18 名, 議事: 1) 前年度より事
務引継, 2) 次回役員会議案について, 3) 次回講演
会及び役員会について, 4) その他。講演会(昭. 29.
5. 1) 愛知県水産会館において西松醇厚氏のプレパク
ト コンクリートについて講演, 天然色映画とスライド
とによつて 2 時間にわたり技術的な興味深い講演で約
80 名の聴講者に多大の感銘を与えた。終了後同氏を囲
んで名古屋在住の役員有志が懇談会を開催し和やかな
交歓が行われた。第 1 回役員会(昭. 29. 5. 8) 出席
者: 大林支部長他役員 36 名, 議事: 1) 昭和 29 年
度予算について, 2) 行事について, 3) 29 年度役員
について, 4) 会員並びに学術会議選挙有権者の増加
について, 議事終了晩餐会を開き翌 9 日予定どおり貸
切バスで志摩半島を一巡して午後 3 時過ぎ宇治山田で
解散した。

◎関西支部 第 26 回総会及び見学会(昭. 29. 5. 15)
午後 1 時~3 時総会及び講演会を開催し出席者 158
名, 引続き大阪港を見学(参加者 89 名), 午後 6 時か
ら懇親会を開催し参加者 35 名で和やかに散会した。

◎西部支部 第 4 回幹事会(昭. 29. 5. 14) 出席者:
武田, 下津, 上田, 天方, 乙藤, 古賀, 福田(代),
和田の各幹事, 古江, 柳川両世話役, 議事: 1) 第 1
回講演会, 見学会の会計報告, 2) 寄附金納入状況報
告, 3) 昭和 29 年度会計中間報告, 4) 研究発表会
の開催について, なお福田正典君札幌鉄道教習所長に
転出のため後任幹事として石川高明君を委嘱した。

昭和 29 年 6 月分入退会報告 (29.6.1~6.30 現在)

1. 入 会	292 名 (特 2 級 1, 正 28, 准 59, 学生 204)
2. 退 会	30 名 (正 6, 准 18, 学生 6)
3. 転 格	14 名 (正より名誉 3, 准より正 11)

会 員 現 在 数 (29.6.30 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1 級	2 級	3 級	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
22	16	33	74	152	5 071	5 955	1 320	12 642	262	

昭和 29 年 6 月 10 日 印刷	土木学会誌	定価 100 円
昭和 29 年 6 月 15 日 発行	第 39 卷 第 6 号	
編集兼発行者	東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地	中 川 一 美
印刷者	東京都港区赤坂溜池 5 番地	大 沼 正 吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池 5 番地	株式会社 技 報
東京中央郵便局区内	千代田区大手町 2 丁目 4 番地	電話和田倉 (20) 3945 番
発行所 社団法人	土 木 学 会	振替東京 16828 番